

## 駿府城(府中城, 静岡城) (百名城) (静岡市葵区) (駿府城公園)

駿府城(すんぷじょう)は駿河国安倍郡、現在の静岡県静岡市葵区にあった城である。別名は府中城や静岡城など。

江戸時代には駿府藩や駿府城代が、明治維新时期には再び駿府藩(間もなく静岡藩に改称)が置かれた。

14世紀に室町幕府の駿河守護に任じられた今川氏によって、この地には今川館が築かれ今川領国支配の中心地となっていた。今川氏は隣接する甲斐国の武田氏、相模国の後北条氏と同盟を結び領国支配を行ったが、16世紀には甲斐を中心に領国拡大を行っていた武田氏との同盟関係が解消され、武田氏の駿河侵攻により今川氏は駆逐され、城館は失われた。

今川領国が武田領国化されると支配拠点のひとつとなるが、武田氏は1582年(天正10年)に織田・徳川勢力により滅亡し、甲斐・駿河の武田遺領は三河の徳川家康が領有した。徳川氏時代に駿府城は近世城郭として築城し直され、この時に初めて天守が築造されたという。その後1590年(天正18年)には、豊臣政権による後北条氏滅亡に伴う家康の関東移封が行われ、徳川領国と接する駿府城には豊臣系大名の中村一氏が入城する(甲斐の甲府城にも、同様に豊臣系大名が配置されている)。

江戸時代初期、家康は徳川秀忠に将軍職を譲り、大御所となって江戸から駿府に隠居した。このとき駿府城は天下普請によって大修築され、ほぼ現在の形である3重の堀を持つ輪郭式平城が成立した。天守台は、石垣天端で約55m×48mという城郭史上最大の天守台であった。しかし1607年(慶長12年)に、完成直後の天守や本丸御殿などが城内からの失火により焼失した。その後直ちに再建されたが、1610年(慶長15年)再建時の天守曲輪は、7階の天守が中央に建つ大型天守台の外周を隅櫓・多聞櫓などが囲む特異な構造となった。

1616年(元和2年)に駿府城で家康が没するまでの大御所政治時代、駿府は江戸と並ぶ政治・経済の中心地として大いに繁栄した。

現在では、天守・櫓・門などの建造物や三重の堀のうち外堀の三分の一と内堀(本丸堀)は埋め立てられて現存していないが、残された中堀・外堀の石垣が往時の姿を留めている。また、外堀と中堀の間にある旧三の丸には官庁や学校などの公共施設が立地し、中堀の内側にある旧二の丸・本丸は「駿府城公園」として整備されている。1989年に二の丸の巽櫓(たつみやぐら)が1996年には東御門(櫓門)と続多聞櫓が日本古来の伝統工法によって復元され、内部は資料館となっており見学することができる。また、明治時代に陸軍歩兵第34連隊を誘致する際に埋められた内堀(本丸堀)も部分的に発掘され保存されている。なお、2014年(平成26年)春の完成をめざし、坤(ひつじさる)櫓の復元工事が行なわれている。

### 安土桃山時代

- 1585年(天正13年) 駿河国を支配した徳川家康が浜松城より居城を移して築城。
- 1590年(天正18年) 小田原征伐後、江戸に移封となった徳川家康に代わり、中村一氏が大名として入城。Wikipediaによる

